



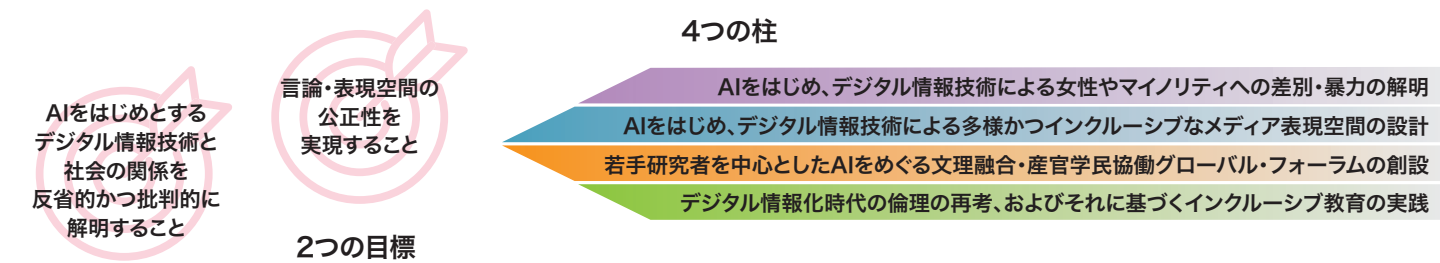
設立 5 周年記念シンポジウム

AI と DE&I ーデジタル人道主義の未来

2024 年 11 月 18 日 (月)
13 : 00 – 17 : 30

●B'AI Global Forum(ビー・エイアイ グローバル・フォーラム)とは

東京大学とソフトバンク株式会社が共同で立ち上げた「Beyond AI研究推進機構」の中の「AIと社会」部門内の研究グループ。AI時代における真のジェンダー平等社会の実現とマイノリティの権利保障のための規範・倫理・実践研究を行う。研究期間は2020年7月30日～2030年3月31日(予定)で、本年度は中間の5年目に当たる。名称の「B'」には、AI以前の言論・表現空間の歴史(before)、AI発展の背後の利害(behind)、AIの開発・生産を可能にする下部構造(beneath)、AI技術に留まらない広い社会の理解(beyond)など、AI技術を取り巻く歴史やそれを支える社会構造を多角的に考察していこうという意味が込められている。



●研究課題

B'AI Global Forumは、ジェンダー平等社会とマイノリティの権利保障という社会目標を、AIが社会のあらゆる局面に浸透する時代に、いかにによりよく実現していくかを主眼としている。現在、経済格差やジェンダー・人種・民族などに基づく差別が止む気配はなく、課題は山積している。とりわけ、2020年新型コロナウイルスの感染拡大以降、政治、経済、文化などの社会活動において、デジタル技術を利用したコミュニケーションの比重が格段に増す中、そういった差別が一層助長されていく例が世界各地で報告されている。このプロジェクトは、こうした社会問題の克服を目指し、市場原理ならびに一方的な科学技術の発達を最優先させてきた近代以降の諸制度や価値観を根本から問い直し、現代社会の諸制度や組織構造の成り立ちを解明していく。さらに、AIなどの先端技術が、あらゆる人の生に貢献する技術となるよう、多様な分野の研究者、実務家、ジャーナリスト、市民たちとともに、現状の課題を見出し、その解決を模索、提案していく。

●研究分野の広がり

B'AI Global Forum には様々なバックグラウンドを持つ研究者や専門家が関わっている。以下に研究分野や対象をワードクラウドで表現した。



●現在のメンバー

【運営チーム】板津 木綿子(研究リーダー)、林 香里、矢口 祐人、伊藤 たかね、久野 愛
【研究分担者】江間 有沙、佐倉 統、水越 伸、河原 理子、越塚 登、マイルス・ペニンントン、大西 晶子、田中 東子、藤田 結子、横山 広美、高梨 直紘、山口 利恵
【特任助教】呉 先珍、イ ミンジュ
【特任研究員】加藤 穂香
【客員研究員】小島 慶子、治部 れんげ、山本 恵子、白河 桃子、李 美淑(前 研究分担者)、章 蓉、田中 瑛(前 RA)、ガリーナ・シンドレイエバ、何 欣琪
【学外協力者】浜田 敬子、三浦 まり、三品 由紀子、一方井 祐子、アリッサ・カスティロ・ヤップ(前 院生)
【リサーチ・アシスタント(RA)】大月 希望、プリヤム
【院生メンバー】ジンジャー・ホアン
【事務局】五十田 みどり

●これまでのメンバー

【研究分担者】ティルマン・ハートウィグ
【特任助教】武内 今日子
【特任研究員】左右田 智美、金 カヨン、ノ・ジュウン、佐野 敦子
【客員研究員】カレン・シマカワ、セザール・カステルビ、リチャード・カーター・ホワイト、アルノー・クラス
【リサーチ・アシスタント(RA)】イム ドンウ、加藤 大樹、大井 将生
【院生メンバー】ラウリー・華子、エヴァ・ルレイ、ウィル・グスマン、スエダ・マシュー
【事務局】二神 菜生

●プロジェクト・活動



BAIRAL研究会

若手RA(リサーチアシスタント)が主体となり開催している研究会。デジタル情報技術と社会の関係について理解を深めるために、様々なゲストスピーカーの方にお話しいただいている。

◎これまでの開催実績(2024年10月現在)

- ・回数：2020年度4回、2021年度8回、2022年度10回、2023年度6回、2024年度3回
- ・登壇者：大学院(院生)14名、大学・研究機関(若手研究者中心)11名、企業7名(うちメディア関係4名)、その他3名
※複数名登壇の回、所属重複あり

トラウマレポーティング研究会

声をあげにくい人たちの話を聞き、社会に伝え、課題を示していく取り組みは、とても大切である。公正な言論空間を作るためには、こうした取り組みが欠かせない。これは、主にジャーナリズムが果たすべき役割の一つである。しかし、とりわけ、心身にダメージを負ったvulnerableな(傷つきやすい)人たち、事件事故、あるいは(性)暴力や虐待の被害者、災害の被災者、その家族、戦争や紛争の生存者など、の話をきいて伝えるには、知識やトレーニングが必要である。「共感」「寄り添う」「配慮」とは、具体的にどうすることなのか。取材する側が最低限知っておくべきことは、何か。この研究会では、「読書会」と「シンポジウム」を通じて課題を共有し、新たな道筋を探る。

共同研究・イベント

- ・レジャーにおける格差・差別・スティグマに関する研究
- ・日本科学未来館との研究会、展示見学、イベント登壇
- ・ソフトバンク株式会社との交流、意見交換
- ・横山広美研究室との共同研究: AIに関する一般市民の受け止め方を国際比較。日米独韓4カ国に関する研究は『AI and Society』に掲載
- ・“The Future of Higher Education in the AI Age”: 2023年12月に東京大学ニューヨークオフィスで開催したイベント
- ・谷中瞳研究室とのLLMに関するプレハイスサイクル研究
- ・CNRS研究交流会 “Cultural Imaginaries of AI”
- ・“Cross-Cultural Approaches to desirable AI”: 2024年10月～2025年1月にボン大学、ケンブリッジ大学、ヨーロッパ応用科学大学と共同開催する4大学セミナーシリーズ
- ・その他シンポジウム・イベントの開催



●編著『AIから読み解く社会——権力化する最新技術』

急速にAI技術が浸透しつつある社会において、目先の利便性だけに注目するのではなく、その社会的な影響を俯瞰的かつ多角的に理解することが求められている。これまで人文社会科学分野では、法学、哲学、倫理学を中心にAI技術に関する議論が進められてきた。だが、メディア研究、言語学、歴史学、社会学、ジェンダー研究などその他の研究領域においても分野横断的にAI時代の到来を考察する必要がある。本書は、これら多様な分野の研究者が分担執筆し、技術的な側面のみならず、政治的・社会的・文化的観点からAIや関連技術について論じている。そして、AI技術の開発・利用がいかに社会制度や経済システムなどの権力構造と密接に関係しているのかを分析することで、AIの可能性とそれが孕む問題を明らかにした。これにより、文系・理系の区別や研究分野の壁を乗り越え、多くの人々がAIに関する対話に参加できるような環境作りのきっかけとなることを目指した。

B'AI Book Club (書評会)

AIやアルゴリズムなどの情報技術を批判的な観点から考察した海外の文献を読み議論する書評会。まだ日本に紹介されていない文献を研究メンバーで読むことで海外の研究動向を把握するとともに、AIの開発・利用に潜む権力の問題、科学技術に内在するマスキュリニティの問題などについて一緒に考え勉強する場である。これまでに32回開催されている。



Women in Tech Lunch

理工系分野に女性が少ない要因の一つとして、「ジェンダーゆえの居心地の悪さ」が挙げられる。このような状況下で、不愉快な経験をしたり悩みを抱えながらも、それを共有できる仲間が見つからず困っている人も多い。そこで、B'AI Global Forumでは、理工系分野の女性たちが気軽に集まり、お互いに交流し、意見を共有できる場として「Women in Tech Lunch」を開催している。自身と同じような経験や悩みを持つ他の学部や研究室の女性たちと話す機会を通じて、新たなつながりを築き、お互いをサポートすることが目的である。これまでに11回開催されている。

MeDi



MeDi(メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会)は、テレビ、新聞、インターネットなど、さまざまな媒体上の公正な表現のあり方を考える産学共同研究グループである。メディアの表現は、日常生活の規範をつくるほどの影響力があるだけに、不適切な表現は人権問題にもなり、職場や学校での差別やいじめ、ハラスメントにつながっているという指摘もある。MeDiでは、こうしたメディアの諸問題を指摘するとともに、世界の研究者や実務家と連携しながら、現代デジタル情報社会の積極的な可能性と今後の課題を模索する。

大学院生によるプロジェクト

- ・「AIアルゴリズムとジェンダー不平等」：2023年12月および2024年11月に科学技術社会論学会で発表
- ・“Exploratory analysis of perceptions of artificial intelligence among high school students living in Japan” (日本の高校生のAIに関する認識に関する分析): 2023年10月に Human-AI Interactionに関する東京大学 - オウル大学(フィンランド)共同シンポジウム(TOHA)にて発表
- ・“PERCEPTIONS: Reconstructing AI Narratives”(AIの語りの再構築): 2023年9月に院生メンバー主催で展示会を開催。2024年11月に科学技術社会論学会で発表

●Webサイト・SNS

Web サイト



Facebook



X(Twitter)



YouTube

